



進路だより

第6号 (web 版)

2026年2月13日発行

宮城県東松島高等学校進路指導部

しっかり読んでいますか、「学習の手引き」

ガイダンス部長

皆さんは本校の「学習の手引き」をどれくらいしっかり読んでいるでしょうか。新入学生には1人に1冊ずつ配付され、2年次以降はクラスルームを通じて公開されるあの冊子です。目についた講座の内容紹介だけをさらっと見て終わり、になっていませんか。

東松島高校って本当にユニークな学校ですよ。なぜなら自分の希望進路に合わせて、時間割を(かっこよく言うと)カスタマイズできるからです。理系、文系それぞれの4年制大学への進学を目指す授業はもちろん、特に芸術系の授業、福祉系の授業が充実しているし、ボランティア活動も卒業のための単位として認められる。学校以外に何か興味のあること、大切なことに取り組みたいなら、履修登録科目数を少なめに抑えることもできる。生徒の皆さんには、東松島高校の個性的な制度を大いに利用してもらいたいと思っています。

そのために必要なことは何か。一つには、「学習の手引き」を熟読すること。例えば8ページ目には「文系大学進学希望生徒の履修計画例」、「福祉分野就職希望生徒の履修計画例」が掲載されているので大変参考になると思います。これ以外のケースであれば、ガイダンス部の教員や SA の先生に遠慮なく聞いてみてください。「学習の手引き」をよく読んで、各自の目標に一步一步着実に近づいて行くことを心より願っております。



あなたが育てる、未来の自分

研究企画部長

先日行われた「ひがプロ全体探究会」では、皆さんが何に関心を持ち、どのような方法で疑問に向き合い、自分なりの答えを見つけてきたのか、非常に興味深く拝見しました。レポートのまとめ方では、図表や画像を効果的に使い、検証の過程をわかりやすく整理するなど、「伝える力」が身につけてきていることを実感しました。また、他者の発表を閲覧する皆さんの様子も素晴らしかったです。学年を越えて「ここがすごい!」「面白い!」と素直に認め合う姿勢からは、単なる知識の習得だけでなく、人とつながる力やこれからの生き抜く力の芽生えが感じられ、本校の探究活動にかかわってきた者としてとても嬉しく思いました。学校は「授業」という形を通して、さまざまな学びや気づきに出会う場所ですが、「なんてだろう?」「もっと知りたい!」という気持ち—いわゆる探究心—は、日常の中にもたくさんあります。

自分の関心があることを知るのは楽しいものです。ワクワクしながら得た知識や、その過程で使いこなししたツールやスキルは、他の場面でも必ずあなたの助けとなり、実力を底上げしてくれます。「どう生きたいか」や「何になりたいか」は、そんな探究の先に見えてくるものです。ですから、今はとにかく「何が自分の心を動かしたのか」「どうしてそう感じたのか」を考えたり、調べたり、人に相談したりして自分なりの答えを探していきましょう。卒業後の進路が決まっている人も、新たなステージでワクワクすることを見つけて自分をブラッシュアップしてください。もちろん、「嫌だけれどやるしかないこと(避けては通れないこと)」もあります。嫌なことと向き合うのは気が進まないけれど、どうせ取り組むのであれば、「どうしたら少しでも楽しめるか」を探究してみましょう。義務や課題とも上手に向き合いながら、自分の心が動く時間を大切にして未来のあなたを育ててください。



